



**平成 27 年度（平成 26 年度事業対象）
教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検・評価の報告書**

平成 27 年 12 月

三芳町教育委員会

ごあいさつ

町教育委員会では、毎年度『三芳町教育行政重点施策』を策定し、教育諸課題の解決に積極的に取り組んでいます。

この教育行政重点施策では、教育基本法の「生きる力」という理念のもと、学習指導要領の「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな身体」の調和のとれた教育を推進していきます。また、学校教育と社会教育の2つの基本方針を柱にした『三芳町教育振興基本計画（平成24年度～平成27年度）』に掲げる「生きる力をはぐくみ ぬくもりのある豊かな地域社会を拓く」という基本理念を踏まえ、社会の変化に主体的に対応できる知性と感性を備えた人材を育成するため、知・徳・体のバランスのとれた教育の推進、家庭・学校・地域の連携等を進めてまいります。また、豊かでありゆとりある人生を送るために、様々な教育活動や社会体験等をとおして、生涯にわたって主体的に学び続けることができるような教育環境の整備に取り組んでいます。

このような中で、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成20年4月1日施行）、各教育委員会では、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされています。

そこで、町教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様に対する説明責任を果たすため、平成20年度から「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」を実施し、報告書にまとめ公表しております。この報告書をご覧いただき、町教育委員会の取組に対するご意見をいただくことで、よりよい三芳教育の実現を目指していきたいと考えております。

今後とも、教育行政重点施策に掲げた目標の達成に向けて、着実に取組を進めてまいりたいと存じますので、町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年12月 三芳町教育委員会

目 次

I	点検・評価制度の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	教育委員会の活動・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	(1) 予算・決算の状況	
	(2) 教育委員会会議の開催実績	
	(3) 教育委員の活動実績	
III	教育委員会の主要施策の点検・評価結果・・・・・・・・	12

I 点検・評価制度の概要

I 点検・評価制度の概要

1 経緯

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成20年4月から施行されました。

今般、地教行法の改正目的である「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして、同法第26条の規定に基づき、平成20年度から教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検・評価を行うことが義務付けられたことに伴い実施するものです。

【参考】

根拠法令

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）（一部省略）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 目的

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、すべての都道府県及び市町村に設置されている行政委員会です。その役割は、事務局と、様々な属性を持った複数の委員による合議により、指揮監督（レイマンコントロール）し、中立的な意思決定を行うものとされています。

事務の点検・評価は、上記の地教行法第26条の規定に基づき、教育委員会が、教育長以下の事務局を含む広い意味での教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的としています。

3 点検・評価する事務の対象

本年の点検・評価は、『平成26年度教育行政重点施策』に掲載されている施策の中から、当該年度に特に取り組んだ施策を中心に選定しています。

4 点検・評価の方法

3の施策ごとに、当該年度の実績と成果実績について自己総合評価を行い、点検・評価の客観性を確保するために、教育に関して学識経験を有する方のご意見をお聞きする機会を設け、ご意見、ご助言をいただきました。

5 結果の取扱い

この点検・評価においては、施策ごとに4段階（A・B・C・D）で評価しており、評価の高い施策については引き続き実施し、評価の低い施策については課題や問題の解決を行うと同時に施策の見直しについて検討していく予定です。

総合評価A…掲載の施策内容は町教育行政の推進に寄与する内容であり、行革や住民の視点からも工夫され、効果的と判断できる。

（十分・妥当性90%以上）

総合評価B…掲載の施策内容は、若干内容の見直しを図りつつも、継続が必要であると判断できる。

（概ね十分・妥当性70～89%）

総合評価C…掲載の施策内容は、大幅な見直しが必要であるが、今後も何らかの方法で継続すべき要素が含まれているため、他施策との統合や規模の縮小、指定管理者等全面委託、代替手段の検討などの見直しを行う必要があると判断できる。

（やや不十分・妥当性40～69%）

総合評価D…掲載の施策内容は、社会情勢の変化等から休止、終期設定、廃止、民営化についても視野に入れた抜本的な見直しを行う必要があると判断できる。
--

（不十分・妥当性40%未満）

6 学識経験者の検証

(1) 学識経験者の構成

ご意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです。(敬称略)

氏 名	所 属 等
松原 健司	淑徳大学教育学部教授
澤田 秀雄	三芳町教育相談室常任相談員
上島 三介	三芳町社会教育委員

(2) 会議等開催状況

【自己点検・評価に係る研修会】(教育委員会職員対象)

平成27年6月15日(月)

【第1回意見聴取会】

平成27年9月14日(月)

○教育委員会点検・評価の説明、意見交換

【第2回意見聴取会】

平成27年11月2日(月)

○学識経験者意見等について協議

Ⅱ 教育委員会の活動

II 教育委員会の活動

1 教育委員会の予算・決算の状況

平成26年度の教育費（歳出）の予算現額と決算額は次のとおりです。

予算現額は3,637,870,000円で、一般会計歳出総額に対する構成比は21.7%であり、決算額は3,592,508,055円で、構成比は24.3%となりました。

(単位：円)

費目	予算現額	決算額
一般会計総額	16,735,380,000	14,779,913,257
10 教育費	3,637,870,000	3,592,508,055
1 教育総務費	2,331,978,000	2,320,572,880
1 委員会費	1,278,000	1,218,720
2 事務局費	2,295,417,000	2,285,775,868
3 教育指導費	35,283,000	33,578,292
2 小学校費	190,691,000	180,879,699
1 学校管理費	155,446,000	146,774,713
2 教育振興費	35,245,000	34,104,986
3 中学校費	316,864,000	309,322,395
1 学校管理費	283,873,000	278,792,063
2 教育振興費	32,991,000	30,530,332
4 社会教育費	376,467,000	367,692,565
1 社会教育総務費	66,834,000	64,699,577
2 文化財保護費	17,190,000	15,875,977
3 公民館費	110,638,000	107,357,996
4 図書館費	112,008,000	110,707,381
5 歴史民俗資料館費	69,797,000	69,051,634
5 保健体育費	421,870,000	414,040,516
1 保健体育総務費	27,429,000	27,307,668
2 体育施設費	155,909,000	155,761,541
3 学校給食費	238,532,000	230,971,307

2 教育委員会会議の開催実績

教育委員会会議は、基本的に毎月1回定例会を開催するほか、必要に応じて臨時会を開催します。

平成26年度においては、次のとおり会議を開催し、審議を行いました。
(報告事項については主なものを抜粋して掲載)

教育委員会会議		4月	平成26年4月25日(金)	502会議室
定例会	教育長の報告	①	ホタルの幼虫の放流について	
	報告	②	ブックリストの贈呈式について	
	報告	2	専決処分の報告について(三芳町立小中学校の施設の開放に関する規則の一部を改正する規則)	
事務連絡	事務連絡	①	教育委員学校訪問の実施について	
	事務連絡	②	町内小中学校PTA定期総会の実施について	
	事務連絡	③	入間東部地区教育委員会連絡協議会について	
	事務連絡	④	埼玉県市町村教育委員会総会・記念講演会について	
教育委員会会議		5月	平成26年5月9日(金)	502会議室
定例会	議事	23	平成26年度三芳町一般会計補正予算(第1号)について	
		24	平成26年度三芳町一般会計補正予算(第2号)について	
		25	学校給食センター厨房機器設置工事請負契約締結の承認について	
		26	三芳町私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部を改正する件	
		27	三芳町図書館協議会委員の任命について	
事務連絡	事務連絡	①	関東甲信越静市町村教育委員会連合会について	
		②	三芳町体育協会定期総会について	
		③	三芳町人権教育推進協議会総会・全体研修会について	
		④	埼玉県市町村教育委員会総会・記念講演会について	
		⑤	埼玉県市町村教育委員会教育委員研究協議会について	
教育委員会会議		6月	平成26年6月2日(月)	502会議室
臨時会	教育長の報告	①	中学生海外派遣実施委員会について	
	議事	28	平成26年度三芳町一般会計補正予算(第3号)について	
	議事	29	中学校空調設備設置工事請負契約締結の承認について	
事務連絡	事務連絡	①	教科書展示会について	
		②	教科用図書採択協議会について	

教育委員会会議 6月 平成26年6月25日(水) 502会議室			
定例会	教育 長の 報告	①	教科書展示会について
		②	中学生海外派遣事業実施委員会について
	議事	30	三芳町学校給食運営委員会委員の委嘱について
		31	三芳町学校給食センター監査委員の委嘱について
		32	三芳町立小・中学校学校評議員の委嘱について
		33	三芳町学校開放運営委員会委員の委嘱について
事務 連絡		①	中学生海外派遣団結団式について
		②	平成26年第4回三芳町議会定例会について
		③	教育委員会の自己点検・評価について
教育委員会会議 7月 平成26年7月29日(火) 502会議室			
定例会	教育 長の 報告	①	子ども大学みよし入学式について
		②	三富新田世界農業遺産推進シンポジウムについて
	議事	34	平成25年度三芳町学校給食費会計歳入歳出決算の承認について
		35	三芳町教育委員会の事務の管理及び執行の状況についての点検・評価に係る学識経験者の委嘱について
		36	平成27年度使用小学校用教科用図書採択について
報告	3	専決処分の報告について(平成26年度三芳町一般会計補正予算(第4号)について)	
事務 連絡		①	中学生海外派遣について
		②	親善訪問団受入について
		③	町長との意見交換会について
教育委員会会議 8月 平成26年8月8日(金) 502会議室			
定例会	教育 長の 報告	①	中学生海外派遣団について、報告
		②	入間東部地区教育委員会連絡協議会について
	議事	37	平成25年度教育費決算について
		38	平成26年度三芳町一般会計補正予算(第5号)について
		39	公民館運営基本方針について
事務 連絡		①	平成26年第6回三芳町議会定例会について
教育委員会会議 9月 平成26年9月25日(木) 502会議室			
定例会	議事	40	平成27年度当初教職員人事異動の方針について

教育委員会会議		9月	平成26年9月25日(木)	502会議室
	事務	①	「彩の国教育の日」に係る学校行事について	
	連絡	②	平成26年第6回三芳町議会定例会について	
教育委員会会議		10月	平成26年10月21日(火)	501会議室
定例会	教育長の報告	①	中間申告ヒアリングの実施について	
	議事	41	議案取り下げ	
		42	財産の取得について(学校給食用強化磁器食器等)	
43		財産の取得について(新三芳町立学校給食センター調理機器に付属する備品)		
事務	①	平成27年三芳町成人式実行委員会について		
連絡	②	入間地区教育委員会連合会 理事会・研修会について		
教育委員会会議		10月	平成26年10月31日(金)	502会議室
臨時会	議事	44	平成26年度三芳町一般会計補正予算(第6号)について	
		45	三芳町公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	
		46	指定管理者の指定について	
教育委員会会議		11月	平成26年11月26日(水)	藤久保公民館学習室
定例会	教育長の報告	①	唐沢小学校40周年記念について	
	議案	47	平成26年度(平成25年度事業対象)教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価の報告について	
		48	三芳町立小・中学校職員服務規程の一部を改正する規程	
	報告	4	専決処分の報告について(長期病気休暇者の処遇)	
5		専決処分の報告について(職員の処分)		
事務	①	平成26年第7回三芳町議会定例会について		
連絡	②	平成26年度教育委員研修について		
教育委員会会議		12月	平成26年12月17日(水)	301会議室
定例会	教育長の報告	①	子ども大学みよし修了式について	
		②	人権教育実践交流会について	
	議事	49	三芳町公民館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則	
事務	①	入間・比企地区合同教育委員研修会について		
連絡	②	学校訪問(後期)の実施について		

教育委員会会議 1月 平成27年1月21日(水) 502会議室		
定例会	教育 長の 報告	① 教育長の教育方針演説について
	事務 連絡	① 三芳町立小・中学校卒業証書授与式について ② 平成27年三芳町成人式について
教育委員会会議 2月 平成27年2月4日(水) 502会議室		
定例会	教育 長の 報告	① 学校指導訪問について
	議事	1 平成27年度三芳町一般会計予算(教育費)について 2 平成26年度三芳町一般会計補正予算(第8号)について 3 平成27年度教育行政重点施策について 4 平成27年度当初教職員人事異動(管理職のみ)について 5 三芳町学校給食センター設置条例の一部を改正する条例
	事務 連絡	① 入間東部地区教育委員会連絡協議会第2回合同会議について
教育委員会会議 2月 平成27年2月10日(火) 502会議室		
臨時会	教育 長の 報告	① 中学生芸術鑑賞教室について ② 新中央公民館・給食センターの視察について
	議事	6 平成27年度学校給食実施回数の承認について 7 平成27年度三芳町学校給食費会計歳入歳出予算について
	事務 連絡	① 学校訪問(後期)の実施について
教育委員会会議 3月 平成27年3月19日(木) 502会議室		
定例会	教育 長の 報告	① 平成27年第2回三芳町議会定例会について ② 黄色いワッペンの贈呈式について
	議事	8 三芳町教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 9 平成27年度学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 10 平成27年度三芳町教育相談室常任相談員の委嘱について 11 三芳町スポーツ推進委員の委嘱について
	選挙	1 教育委員長の選挙について
	事務 連絡	① 平成27年第2回三芳町議会定例会について ② 入間東部地区教育委員会連絡協議会 平成27年度定期総会等日程等について

3 教育委員の活動実績

教育委員の活動としては、町内小・中学校への学校訪問や、県及び市町村教育委員会連合会の研修などを行っており、平成26年度の活動実績は以下のとおりです。

(1) 学校訪問及び県・市町村教育委員会連合会研修

行事名	実施時期	学校名	
学校訪問			
教育委員学校訪問	5月13日・15日、2月10日・12日	町内8校	
P T A定期総会	4月25日、5月2・9・16・23日		
運動会及び体育祭	5月17日・24日・31日 9月20日・27日		
彩の国教育の日関連行事	10月3・18・25・28・31日 11月1・7・12・13日		
卒業証書授与式	3月14日・24日		
連 合 会 名	行事名	実施時期	場 所
県・市町村教育委員会連合会研修会			
(全国)市町村教育委員会研究協議会	(不参加)	11月25・26日	静岡県
関東甲信越静市町村教育委員会連合会	定期総会・研修会	5月16日	長野県
埼玉県市町村教育委員会連合会	総会	5月27日	秩父市
	教育委員研究協議会	6月2日	さいたま市
入間地区教育委員会連合会 (川越市など13市町)	理事会 定期総会	4月17日	所沢市
	理事会 全体研修会	10月23日	所沢市
	合同視察研修	11月5日	つくば市立春日学園ほか
	入間・比企地区合同教育委員研修会	1月19日	所沢市
入間東部地区教育委員会連絡協議会 (富士見市・ふじみ野市・三芳町の2市1町)	定期総会	5月13日	三芳町
	委員長・教育長・総務課長合同会議	①8月4日 ②2月9日	ふじみ野市
	全員研修	10月18日	ふじみ野市

(2) 町教育委員会の研修

町教育委員会では、教育諸課題に迅速に対応するため、各種勉強会、意見交換会、研修会などを実施しており、平成26年度の活動実績は以下のとおりです。

テーマ	内容等	期日	場所
町長との意見交換会	・公民館の運営基本方針について ・その他	7月29日	三芳町役場
教育委員会 所管施設訪問	新中央公民館・学校給食センター の視察	2月10日	新中央公民館・学校給食センター

Ⅲ 教育委員会の主要施策の 点検・評価結果

平成27年度 三芳町教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価一覧(平成26年度事業対象)

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針		主要な施策		事業内容等		総合評価		No.	
1	確かな学力と自立する力の育成	1	確かな学力の育成	【施策の内容】	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査の結果を分析・考察し、指導力改善を図る。 児童生徒に基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。 自ら進んで学習に取り組む態度を養う。 児童生徒一人一人に応じたきめ細かな授業改善を推進する。 	【平成26年度の取組み実績】	<ul style="list-style-type: none"> 「思考力・判断力・表現力」を高める授業について研究し、検証授業を実施。(学力向上推進委員会) 各校でICT機器を活用した授業実践を行った。 中学校区ごとで課題を共有する教職員の合同研修や、教員が中学校から小学校へ、小学校から中学校へ出向き出前授業の実施をしたり、合同で授業を行った。(小中一貫教育) 学校図書館や学校図書館司書を活用し、子どもたちの読書活動を充実させた。 	B	1
				【これまでの取組状況】	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの学力向上を図るため、学力向上推進委員を各校に委嘱し、推進委員会にて三芳町の児童生徒の課題を分析し、対策のための授業研究会を開催している。 関心を高め、学習意欲の向上を図るため、ICT機器を活用した授業実践を行っている。 三芳町教育研究員を委嘱し(道徳・コンピュータ等)研修会を実施し指導方法について研究を進めている。 きめ細やかな指導・支援を図るために学習指導員、教育支援員、特別支援教育支援員などの職員を各学校に配置している。 小中学校間の円滑な接続を図る小中一貫教育を推進している。 学校応援団に授業のサポート(家庭科の実習等)を依頼し、きめ細やかな指導を行っている。 	【評価の理由】	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育については、各中学校区で研修会や出前授業の開催が定着し、異校種での課題の共有や指導について共通理解が図られるようになった。 学習指導員等の配置が進み、個に応じた指導の充実が図られるようになった。 ICTの活用が図られ、指導方法の改善が見られた。 読み聞かせやブックトークなどの活動を学校の教育計画に位置づけ実施できた。 全ての学校で学校研究委嘱を受け、授業力の向上等を目指した授業研究会等を実施した。 		
実績と成果				単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	
教育に関する3つの達成目標(学力)に関する達成値				%	94	94	—	95	
学習支援員等の配置				人	25	26	26	29	
【課題と今後の方向性】				【学識経験者の意見】					
<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導などの個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。 子どもたちの学習意欲を高め、確かな学力を確実に身に付けさせるため、各種研修会を充実・活性化させ、教員の指導力の向上を図る。 授業において「めあての明示」「子どもの言葉によるまとめ」を意識するとともに、課題解決学習、体験活動の充実を図り、児童生徒が主体的、意欲的に取り組む学習活動を展開する。 中学校区による小中一貫教育の充実を図る。 				<p>学習指導要領の改訂が迫り、一層確かな学力の育成を求められる中で、町内の全学校において学校研究に取り組み教職員の資質の向上に努めることは重要である。</p> <p>今後も授業研究会等の充実、家庭学習の習慣づけなど様々な対応策の推進を望む。</p>					

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	No.										
1 未来を拓く学びの力	I 確かな学力と自立する力の育成	2 伝統文化の尊重と国際性をはぐくむ教育の推進	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統と文化を尊重し、それらをばぐくんできた我が国及び埼玉、三芳を愛する態度を養うとともに、他国の歴史や文化を尊重する将来の国際人となる児童生徒を育成する。 ・国際理解教育を推進するとともに、小学校での「外国語活動」を充実し、中学校の外国語教育を充実する。 ・外国人児童生徒、日本語の習得が十分でない児童生徒への教育の充実を図る。 	<p>【平成26年度の取り組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」や「クラブ活動」の時間等に、保存会の方を招聘し、地域の伝統芸能である竹間沢車人形や上高灘子、北永井雛子を児童生徒に指導。 ・外国語指導助手(ALT)を小学校に1名、中学校に3名配置。英語指導員を小学校に3名配置し、T.Tとして授業の補助を行った。 ・三芳町中学生海外派遣事業を実施。(マレーシア) ・マレーシアからの親善訪問団の受け入れにより、相互交流を行った。 										
			<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三芳町歴史民俗資料館や各芸能保存会等、地域の資源をしながら、「総合的な学習の時間」や「クラブ活動」の時間等で三芳の伝統・文化に対する学習を実施し、理解を深めることができた。 ・昨年引き続き三芳町中学生海外派遣事業し、安全面に十分に配慮しながら、ホームステイや現地校との交流など、豊かな体験をおして、国際感覚を育てた。また、海外派遣事業に参加した生徒による報告会等を実施し、内外に発信も行っている。 ・マレーシアからの親善訪問団を受け入れ、相互交流を行うことができた。 	2										
			<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生海外派遣および親善訪問団の受け入れを継続し、児童生徒の国際感覚を育てる。 ・国際理解教育を推進するとともに、ALT、英語指導員の活用により、小学校での「外国語活動」、中学校の外国語教育を充実させる。 ・外国人児童生徒、日本語の習得が充分でない児童生徒への日本語指導など必要な支援を継続的に行う。 	<p>【評価理由】</p> <p>担当課</p> <p>学校 教育課</p>										
			<p>【実績と成果】</p> <p>中学生海外派遣事業への応募人数</p>	<p>【学識経験者の意見】</p> <p>中学生海外派遣や親善訪問団の受け入れは、体験を通して国際感覚を育てる良い機会であり、今後も継続を望む。歴史民俗資料館を活用して、児童生徒に三芳町の歴史を理解させることは大切な事から、今後も連携を図り取り組んでいく必要がある。</p>										
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人</td> <td>28</td> <td>21</td> <td>32</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	人	28	21	32	30
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)										
人	28	21	32	30										

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

(※「教育振興基本計画」掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価	No.										
1 未来を拓く学びの力	I 確かな学力と自立する力の育成	3 特別支援教育の推進	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期に児童生徒一人一人の教育的ニーズの把握を行い、個別の教育支援計画を作成し、適切な支援に努める。 ・各学校で校内委員会を設置及び特別支援教育コーディネーターの指名を行うとともに、特別支援教育に係る教職員研修を充実させ、計画的、組織的な支援体制の整備に努める。 ・関係諸機関(子ども支援課、みどり学園、特別支援学校、福祉課)と連携し、町就学支援委員会の取組を充実させる。 	<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校で年に2回、特別支援教育アドバイザーの巡回相談を実施。 ・町費の臨時職員として、特別支援教育支援員を小中学校に1名ずつ配置。 ・県立特別支援学校特別支援教育コーディネーター及び町子ども支援課保健師を加えた町就学支援委員会の実施。 	3										
<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度に竹間沢小学校に通級指導教室を設置。 ・個別の支援を要する児童生徒に対し、具体的な支援の方向性を明確にするために、特別支援教育アドバイザーの巡回相談を実施。 ・児童生徒の実態に応じたきめ細やかな支援を行っていくために、町費の臨時職員として、特別支援教育支援員を小中学校に配置。 				<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係諸機関、特別支援教育アドバイザーとの連携を密にし、個別の支援が必要な児童生徒を早期に見出し、一人一人の教育的ニーズに応じた教育を推進できた。 ・校内就学支援委員会の充実を図り、支援の必要な児童生徒に対する共通理解や個別の指導支援計画、教育指導計画に基づき指導を行い、きめ細かい対応ができるようになったため。 											
<p>【実績と成果】</p> <p>個別の指導計画を作成する学校の割合</p>				<table border="1"> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	%	100	100	100	100	
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)											
%	100	100	100	100											
<p>就学支援委員会の実施回数</p>				<table border="1"> <tr> <th>回</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> <tr> <td>回</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </table>	回	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	回	3	3	3	3	
回	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)											
回	3	3	3	3											
<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育所等との連携を深め、個別に支援が必要な就学児童の状況の早期把握と対応についての検討を迅速に進める。 ・特別支援教育コーディネーターを中心として、校内研修や校内就学支援委員会の充実を図るとともに、ノーマライゼーションの理念に基づき教育を推進する。 ・特別支援学級、通級指導教室の整備充実を図るとともに、担当者の専門性の向上に努める。 				<p>【学識経験者の意見】</p> <p>教育指導計画が作成され、きめ細かい対応ができるようになったことは、大きな成果であり、引き続き関係機関と連携を深め、より一層の指導の充実を期待する。</p>											

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

(※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価	No.															
1 未来を拓く学びの力	I 確かな学力と自立する力の育成	4 進路指導・キャリア教育の推進	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育成する教育を推進する。 小学校においては、児童が学校・家庭・地域での諸活動の中で、その一員としての役割を果たすこと等を通して、自分のよさや得意分野に気づき、日々の生活に生かそうとする意欲や態度を持つことができるようにする。 中学校においては、生徒が将来の行き方を考え、望ましい勤労観、職業観を身に付けさせ、将来直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を高めさせるようにする。 <p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校においては、各教科等の学習や身の回りの職場や施設の見学等の体験学習を通して、自分たちの生活と職業との関係を考え、職業に対する基礎的・基本的な内容を理解できるようにした。 中学校においては、単なる職業選択や学校選択に終わらない生徒自らの意志と責任で進路を選択決定できる指導等、発達段階に応じたキャリア教育を推進するための指導計画の作成と実践、学校内の組織・体制作りを進めた。 自分の所属する集団に貢献することや働く喜びを実感させるため、小学校段階から日常的な役割を意図的に与える当番活動や係・委員会活動の実施。 中学校における「社会体験チャレンジ事業(職場体験)」、「ふれあい講演会」の実施。 	<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の生活や意欲、家庭・地域の実態などを踏まえ、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び学年学級の取組等の具体的な計画の下、体験活動等を通して、学が意義を理解し自己理解を深め、自己実現できるような指導の充実を図った。 中学校において、1ないし2年生が、地域の事業所や施設において、3日間の職場体験学習や、年1回、「ふれあい講演会」を実施。 <p>B</p>	4															
<p>【評価理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校においては、生活科、特別活動、道徳、総合的な学習の時間等を通して、職業に触れたり、勤労に対する考えを深めたりすることにより、働くことの厳しさや喜びを体得しながら、自らの学校や家庭での生活を意欲的に営もうとする実践的態度の育成が図られている。 中学校においては、学級活動の時間を利用して、進路指導・キャリア教育を実施したり、職業調べや職場体験学習、ふれあい講演会等を実施したりすることにより、自己の進路実現に向けた取組が行われている。 小学校における体験活動、当番活動や係・委員会活動などの日常的な活動の場面で、進路指導・キャリア教育のねらいが浸透されつつある。 				<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校においては、生活科、特別活動、道徳、総合的な学習の時間等を通して、職業に触れたり、勤労に対する考えを深めたりすることにより、働くことの厳しさや喜びを体得しながら、自らの学校や家庭での生活を意欲的に営もうとする実践的態度の育成が図られている。 中学校においては、学級活動の時間を利用して、進路指導・キャリア教育を実施したり、職業調べや職場体験学習、ふれあい講演会等を実施したりすることにより、自己の進路実現に向けた取組が行われている。 小学校における体験活動、当番活動や係・委員会活動などの日常的な活動の場面で、進路指導・キャリア教育のねらいが浸透されつつある。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>60</td> <td>小:100</td> <td>小:100</td> <td>小:100</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>100</td> <td>中:100</td> <td>中:100</td> <td>中:100</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	小	60	小:100	小:100	小:100	中	100	中:100	中:100	中:100
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																
小	60	小:100	小:100	小:100																
中	100	中:100	中:100	中:100																
<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態に応じた指導計画の工夫改善に努めさせる。また、進路指導・キャリア教育の意義や推進方法などについての共通理解を深めるため小中学校が連携した研修を計画的に実施する。 小学校段階において、日常的な役割分担を責任をもって果たすことも職業観・勤労観を育成するキャリア教育のひとつであるという認識を持ち、意図的に当番活動や係・委員会活動等させる。 将来働くことについて意欲や関心が持てるよう、学校・地域・企業などが一体となって実際の職場等での体験活動の充実を図る。 				<p>【学識経験者の意見】</p> <p>児童生徒が職業に触れ、勤労に対する考えを深め、働くことの大切さに気づくことは重要である。 今後は、学校・地域・企業が連携して、実際の職場等での体験活動の充実を図る必要がある。</p>																

(※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価		No.															
				評価	【平成26年度の取組み実績】																
1 未来を拓く学びの力	I 確かな学力と自立する力の育成	5 新しい時代に対応する教育の推進	【施策の内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段を積極的に活用できるようにするための学習活動を支援し、児童生徒が主体的に情報を収集・選択・活用・発信し、豊かな創造性と応用力を育成する。 ・教員の情報活用に関する理解の深化と能力の向上のため、授業研究会や各種研修を実施し、指導の充実を図る。 ・教育用コンピュータ、通信回線の整備とともに必要な周辺機器、ソフトウェア・コンテンツの充実、校内LANの整備等を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ研究員によるICTを活用した実践の普及のため、コンピュータ研究員によるICTを活用した授業実践の研究を行い、各校への普及を図った。 	5															
			【これまでの取組状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータや電子黒板をはじめ様々な情報機器を整備し、児童生徒が情報手段を適切かつ主体的・積極的に活用できたり、情報モラルを身に付けたりできるようにするための学習活動の充実を図っている。 ・教職員に対しての情報機器の操作と活用についての研修や授業研究会を実施し、指導力の向上を図っている。 ・コンピュータや情報機器、情報通信ネットワークの整備・充実を図っている。 	担当課 学校 教育課	【評価の理由】 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に各学年1台、中学校に各学年2台ずつ導入されている指導用ノート型コンピュータと教室に設置されているデジタルテレビや実物投影機を組み合わせることで、ICTを活用して授業展開が容易にかつ活発に展開できるようになり、ICTを活用して指導する教員の割合が3.1ポイント上昇した。 ・ICTを活用した各校での授業実践の成果をコンピュータ研究員を通して普及させ、各学校での実践につなげることで、視覚からの思考の深化を進めた。また、興味関心の向上、授業への積極的な参加等、態度面での向上が見られた。 																
			【課題と今後の方向性】 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校には各学年1台、中学校には各学年2台ずつ指導用ノート型コンピュータが設置されているが、児童生徒の情報活用能力育成及び授業の効率化のためには、各学級に1台ずつが望まれる。さらに、タブレット型コンピュータの導入も視野に入れる必要がある。 ・平成24年度にはデジタル教科書が一部の教員に導入されたこともあり、新たなIT機器の普及とそれらを効果的に活用した授業の工夫改善のための研究推進が課題である。 	【学識経験者の意見】 コンピュータ研究員によるICTを活用した授業の成果を、各校へ普及され実践につながったことは、大きな成果である。今後とも一層効果的な研修を進め、教職員の情報機器活用能力が向上していくことを望む。																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績と成果</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教師一人がICT機器を活用して行う年間授業数</td> <td>50</td> <td>55</td> <td>70</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>ICTを活用して指導できる教員の割合</td> <td>68.7</td> <td>70.1</td> <td>73.2</td> <td>95</td> </tr> </tbody> </table>				実績と成果	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	教師一人がICT機器を活用して行う年間授業数	50	55	70	70	ICTを活用して指導できる教員の割合	68.7	70.1	73.2	95			
実績と成果	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																	
教師一人がICT機器を活用して行う年間授業数	50	55	70	70																	
ICTを活用して指導できる教員の割合	68.7	70.1	73.2	95																	

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価		No.									
				評価	【平成26年度の取組み実績】										
1 未来を拓く学びの力	II 豊かな心と健やかな体の育成	1 人権を尊重する教育の推進	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚の育成を図るための指導内容・指導方法を工夫・改善する。 ・いじめ問題の根絶に向けて取り組む。 ・関係機関と連携しながら、児童虐待の早期発見・早期対応をする。 ・「人権教育総合推進地域事業」を推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚育成プログラムの全小中学校での活用。 ・小学校でのCAPプログラムの実施。 ・学校研究における人権教育の委嘱事業の実施。 	6									
				<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三芳町人権教育推進協議会の活動と連携し、人権作文・人権標語・人権ポスター等の募集。 ・教職員の人権感覚の向上を図る、人権教育に関する研修会の実施。 ・文部科学省委嘱「人権教育総合推進地域事業」の取組。 ・埼玉県教育委員会作成「人権感覚育成プログラム」の普及。 	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省、埼玉県教育委員会委託「人権教育総合推進地域事業」の成果をもとに、学校研究のテーマとして人権教育を取り上げる学校が増える等、当事業の発展的継続が図られた。 ・今年度も全小中学校で人権感覚育成プログラムを活用した授業が実践できた。 										
<p>【実績と成果】</p> <p>人権感覚育成プログラムを使って指導している学校の割合</p>				<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>%</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	%	100	100	100	100	
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)											
%	100	100	100	100											
<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育総合推進地域事業の委託は終了したが、当事業を発展的に継続し、今後も人権啓発・人権教育の推進に向けた研修会、講演会、授業研究会を実施していく。 				<p>【学識経験者の意見】</p> <p>いじめ等の問題が社会問題になっており、人権感覚の育成を図る指導を求められている中で、全小中学校で人権感覚育成プログラム等を活用し成果を得ていることは望ましい。今後とも継続して取り組んでいく必要がある。</p>											

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価	No.										
1 未来を拓く学びの力	II 豊かな心と健やかな体の育成	2 豊かな心をはぐくむ教育の推進	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師を中心とした指導体制を整備し、道徳の授業の質を高め、道徳教育の充実を図る。 ・豊かな心をはぐくむため自然体験、職場体験、福祉体験等の体験活動を推進する。 ・学校図書館の整備・充実と読書活動を推進する。 	<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究員(道徳)による保護者を交えた小中学校での道徳授業研究会と研修会の実施。 ・「みよっ子、みんな」で読もうこの1冊!」の実施。 ・各校における読書の時間の設定と読み聞かせ及びブックトークの実施。 ・自然体験、職場体験、福祉体験の実施。 <p>評価</p> <p>B</p>											
			<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育に関する3つの達成目標(規律ある態度)」の取組。 ・道徳教育推進教師を中心とした指導体制の整備と道徳教育の充実。 ・豊かな心を育むため自然体験、職場体験、福祉体験の実施。 ・学校図書館の整備・充実と読書活動を推進する活動の実施。 	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、教職員、町図書館司書、学校図書館司書及び読書ボランティア等による読み聞かせ、中学校においては町図書館職員及び学校図書館司書等によるブックトーク等を実施することにより読書好きの子が増えた。 ・総合的な学習の時間における福祉体験や職場体験等を通して、各校において計画的に体験的な活動が実施された。 ・学校図書館教育推進委員会において「みよっ子、みんな」で読もうこの1冊!」の取組をすることにより、読書活動が活性化した。 	7										
			<p>【実績と成果】</p> <p>「教育に関する3つの達成目標(規律ある態度)」の達成率80%を超える項目数</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>項目</td> <td>95</td> <td>96</td> <td>-</td> <td>108</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	項目	95	96	-	108	
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)											
項目	95	96	-	108											
			1日の中でほとんど読書をしていない児童生徒の割合	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>%</td> <td>小5:20.1 中2:10.8</td> <td>小5:18.2 中2:12.1</td> <td>小5:10.4 中2:13.1</td> <td>小5:10 中2:0</td> </tr> </tbody> </table>		24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	%	小5:20.1 中2:10.8	小5:18.2 中2:12.1	小5:10.4 中2:13.1	小5:10 中2:0	
	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)											
%	小5:20.1 中2:10.8	小5:18.2 中2:12.1	小5:10.4 中2:13.1	小5:10 中2:0											
			<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師を中心とした校内指導体制を整備し、小中一貫教育を中心とした道徳の授業実践を積み重ねて豊かな心の育成を充実させる。 ・自然体験、職場体験、福祉体験など豊かな心をはぐくむ体験活動の更なる充実を図る。 ・継続して学校図書館の蔵書を充実させるとともに、児童生徒が本に触れる機会を意図的につくり、読書活動を活性化させ、豊かな心の育成を図る。 	<p>【学識経験者の意見】</p> <p>道徳研究員・保護者を交えた道徳授業研究会を実施し、指導体制を整えるとともに道徳の授業の質を高める研修の実施は、子ども心をはぐくむ上で重要である。</p> <p>また、道徳教材を有効的に活用しながら、体験活動や読書活動についても積極的に取り組んでいくことが大切である。</p>											

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価	No.															
1 未来を拓く学びの力	II 豊かな心と健やかな体の育成	3 体験活動の推進	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験、福祉体験、地域文化体験等の豊かな体験活動を推進する。 ・小中学校での、みどりの学校ファームを推進する。 <p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校において、勤労観・職業観を育成するため、地域の企業や施設等と連携した職場体験学習や地元で活躍する企業人等による講演会の実施。 ・小中学校に「みどりの学校ファーム」を設置し、農業体験を進め、育てた農作物を調理したり、収穫祭をしたりする活動を通して、食育と生命の尊さについての学習を実施。 ・総合的な学習の時間等を活用し、地域の伝統芸能である竹間沢車人形や上富囃子、北永井囃子など、三芳町の伝統・文化を体験し理解を深める学習を実施。 	<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての中学校において、3日間の職場体験活動を実施。 ・社会福祉協議会の協力を得て、校内や福祉施設等において福祉体験を実施。 ・学校応援団や町内の各種団体の協力による農業体験と交流活動を実施。 <p>A</p>	8															
			<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者、社会、自然環境の中での経験を通して、思いやりや心や規範意識、学習意欲、目的意識、望ましい勤労観・職業観をばぐむむなど、豊かな人間性や社会性など「生きる力」の基礎を培うことができている。 ・小中学校において、学校ファームの設置率が100%となり、農業体験を進め、育てた農作物を調理や収穫祭などの交流活動を通して、食と生命の尊さをばぐむむことができている。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日</td> <td>2.7</td> <td>2.7</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>小:100 中:100</td> <td>小:100 中:100</td> <td>小:100 中:100</td> <td>小:100 中:100</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	日	2.7	2.7	3	3	%	小:100 中:100	小:100 中:100	小:100 中:100	小:100 中:100	
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																
日	2.7	2.7	3	3																
%	小:100 中:100	小:100 中:100	小:100 中:100	小:100 中:100																
			<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校における職場体験学習が継続できるよう、受け入れ先事業所に趣旨等についての更なる理解と協力を働きかけていく。 ・地域の方と協力しながら体験交流活動を実施している学校を増やす。そのために、地域の人材活用と組織の整備を進める。 	<p>【学識経験者の意見】</p> <p>職場体験学習や農業体験により、思いやりの心や規範意識、生命の尊さや食育等「生きる力」の基礎を培うことは重要である。今後も地域と連携し、地域の方の理解と協力を得て、環境を整備していく必要がある。</p>																

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価	No.										
1 未来を拓く学びの力	II 豊かな心と健やかな体の育成	4 教育相談・生徒指導の充実	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動を未然防止し、早期発見・早期対応を行う。 ・教育相談体制を整備する。 ・生徒指導体制を充実させる。 	<p>評価</p> <p>A</p> <p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三芳町教育相談室に、1名の常任相談員を配置し、8:30～16:30まで児童生徒及び保護者等の相談活動を実施。 ・三芳町適応指導教室に指導員2名(8:30～16:30勤務者1名、8:30～14:30勤務者1名)を年間約210日間配置し、指導を実施。 ・児童生徒の実態把握に努め、学校と関係機関が連携していじめ問題に取り組み、その解決・根絶に向けての取組。 	9										
【これまでの取組状況】			<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校全校に教育支援員・特別支援教育支援員、またさわやか相談員を配置し、教育相談体制を整備。 ・三芳町教育相談室に適応指導員を配置し、通室する児童生徒に対して、カウンセリングや学習支援を行い、悩みや不安の解消、学習の遅れ等を補い、学校生活への復帰に向けて支援。 	<p>担当課</p> <p>学校教育課</p> <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校全校に教育支援員・特別支援教育支援員、また中学校にさわやか相談員を配置し、教育相談体制を整備したことで、学校や家庭での問題行動の未然防止、早期発見と早期対応に効果が見られる。 ・登校できない児童生徒に対して、適応指導教室や教育相談室を設置し、学校との連携を図り、心のケアや学習援助に努めている。また、スクールソーシャルワーカーと学校、家庭との連携により、児童生徒へのサポートもできた。 											
【実績と成果】				<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不登校児童・生徒の割合</td> <td>小:0.17 中:2.12</td> <td>小:0.13 中:1.66</td> <td>小:0.13 中:1.85</td> <td>小:0.05 中:2.70</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	不登校児童・生徒の割合	小:0.17 中:2.12	小:0.13 中:1.66	小:0.13 中:1.85	小:0.05 中:2.70	
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)											
不登校児童・生徒の割合	小:0.17 中:2.12	小:0.13 中:1.66	小:0.13 中:1.85	小:0.05 中:2.70											
【課題と今後の方向性】			<ul style="list-style-type: none"> ・指導員が専属で配置され、運営面についても充実しているが、通室する児童生徒が増加する中で、施設面については個別に相談するスペースの確保が十分でない。 ・学校不応答から不登校になってしまう児童生徒を適応指導教室に通室という形で支援することは、当該家庭にとってニーズが大い。 ・不登校には含まれず、長期欠席をする児童生徒が増加する中で、様々な面からのアプローチが必要になる。 	<p>【学識経験者の意見】</p> <p>教育支援員や指導員が専属で配置され、またスクールソーシャルワーカーの配置も行われ、不登校児童の割合が低いことは大きな成果である。</p> <p>登校できない児童生徒への対応は、学校だけでなく関係機関との連携を図る必要があることから、今後一層連携を深めていく必要がある。</p>											

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

No.	総合評価		事業内容等	主要な施策	基本方針
10	評価 B	【平成26年度の取組み実績】 ・児童生徒の「体力」の向上をめざし小中学校それぞれで授業研究会を実施。 ・学校種を超えての研究協議の実施。(体力向上推進委員会) ・栄養教諭による食育指導。 ・中学校の運動部活動外部指導者の活用。	【施策の内容】 ・「教育に関する3つの達成目標(体力)」の取組を推進する。 ・性に関する問題行動や薬物の乱用の防止など、学校保健に関する現代的課題に対応する教育を推進する。	5 体力の向上と学校体育・健康教育の充実	II 豊かな心と健全な体の育成
	【評価の理由】 ・体力向上に向けた授業研究会開催等が年間を通して計画され、課題に対応した研究が行われている。 ・小中学校が連携をし、中学校の教員が小中学校に行き体の指導をするなどの出前授業等が実施され、児童生徒の体力向上に係る課題を共有し解決に向け取り組めた。 ・平成24年度より栄養教諭が配置され、各学校で栄養教諭による児童生徒への食育指導が直接実施され、食に関する意識の高揚が図れた。 ・新体力テスト結果については、文部科学省が示す上位にあたる児童生徒の割合は、1ポイント程度ではあるが年々上昇している。しかし、埼玉県の平均値が年々向上しているためその結果と比較すると児童生徒のさらなる体力向上が求められる。	【これまでの取組状況】 ・教育に関する3つの達成目標の「体力」について、児童生徒一人一人の「体力」向上目標値を設定。 ・三芳町体力向上推進委員会を中心に、各小中学校の体力の状況を分析し、実態に応じた研究実践の推進。 ・中学校の運動部活動に外部指導者を派遣。 ・子どもたちに望ましい食習慣を身に付けさせるための食育指導。	【実績と成果】 新体力テストにおける総合評価上位の児童生徒の割合	1 未来を拓く学びの力	
	担当課 学校教育課	【学識経験者の意見】 小中学校は連携して児童生徒の体力向上に係る課題を共有し解決に向けて取り組んでいるが、学校を核に家庭や地域と連携しながら取り組むことも大切である。 食育の重要性が指摘されている中で、栄養教諭に食育指導の推進を今後も一層進めていく必要がある。	【課題と今後の方向性】 ・新体力テストの分析をいかした取組を推進する。 ・授業力向上をめざし、小中合同の授業研究会を実施する。 ・学校を核に、家庭や地域と連携しながら、体力向上に取り組む。 ・学校・家庭・地域の医療機関をはじめ各機関が連携し、健康教育を充実する。 ・学校保健に関する現代的課題に対応する教育を推進する。 ・児童生徒一人一人の体力向上に向けた授業について研究を深める。 ・専門的な知見を有する方から直接指導方法について指導を得られる機会を設定する。		
	単位 % 回	24年度 25年度 26年度 27年度(目標値) 46.3 47.1 48.1 75.0 8 8 8 16			

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価	No.										
1 未来を拓く学びの力	III 質の高い教育体制の確立	1 教職員の資質・能力の向上	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事評価制度を充実させ、目標による教職員の人事管理や資質・能力の向上を図る。 ・教職員研修の充実を図る。 ・各小中学校において倫理確立委員会を活性化し、教職員モラルの向上を図る。 ・子どもと向き合う環境づくりを推進する。 ・メンタルヘルス研修を充実させ、教職員の心身の健康維持を図る。 	<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己申告シートに基づく面談の実施。(当初・中間・評価の3回) ・研究報告書の発行及びグループ・個人研究発表会の実施。 ・教育研究員による研究授業の実施。 ・初任者・5年次・10年次・20年次及び臨時的任用教員研修会の実施。 ・学校指導訪問(4校)、管理訪問(全校)、指導主事による学校訪問(全校)の実施。 <p>評価</p> <p>A</p>	11										
<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長にあつては教育長・学校教育課長と、その他の職員にあつては校長と、目標の設定、見直し、評価について自己申告シートに基づく面談を3回実施。 ・学校・グループ・個人研究の委嘱。 ・教育研究員による研修会、授業研究会の実施。 ・初任者・5年次・10年次・20年次研修及び臨時的任用教員研修会の実施。 ・学校指導訪問、管理訪問、指導主事による学校訪問の実施。 			<p>担当課</p> <p>学校 教育課</p>	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質・能力の向上を図るためには研修が欠かせない。また、教育現場での多忙感は極めて高い。その中で、学校・グループ・個人研究など、研究主題を設定しての研修の集大成としてその研究の成果を発表する研究授業を実施している。 ・研究授業を実施する中で、1時間の授業の中で、本時の目標を明確に提示し、きちんとまとめをするという授業形態が定着してきた。 ・初任者・5年次・臨時的任用教員研修において校内での向上が図られている。 ・事務の共同実施の試行により、教職員の事務の軽減が図られるようになってきた。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回</td> <td>22.9</td> <td>32</td> <td>33</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	回	22.9	32	33	10
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)											
回	22.9	32	33	10											
<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事評価制度をさらに充実させ、PDCAサイクルによる資質・能力の向上に努める。 ・学校・グループ・個人研究など研修の機会を充実させ、研究発表や研究授業などの研究成果をフィードバックし、より質の高い教育を推進する。 			<p>【学識経験者の意見】</p> <p>今日、若い教職員が急速に増加しているため、計画的な研修制度を活用したり、個別の研修課題に取り組んだりして、教職員の資質向上を図ることは重要である。より質の高い教育が推進されることを期待する。</p>												

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総 合 評 価	No.										
1 未来を拓く学びの力	III 質の高い教育体制の確立	2 学習環境の整備充実	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人材育成、ICT機器等をはじめとする教材教具のより一層の整備の充実を図る。 ・各学校図書館に配置した司書を中心に、蔵書の整備充実を図り、児童生徒の読書活動を推進し、学力向上及び人間形成や情操を養う上で重要な役割を果たすものである。 ・就学援助・特別支援教育就学奨励・私立幼稚園就園奨励の支給により、保護者の経済的負担を軽減し、教育の振興に資する。 	<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種教員研修及び学校・グループ・個人に対する研究委嘱事業の実施。 ・学習指導員、教育支援員、特別支援教育支援員、英語指導員等の各校への配置。 ・学校図書館蔵書の整備。 ・就学援助費・特別支援教育就学奨励費・私立幼稚園就園奨励費の支給。 	12										
【これまでの取組状況】				<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用や電子黒板の導入による指導の充実が図られるとともに、学習指導員等の町独自の職員配置により、児童生徒の個に応じた指導により、学習意欲の向上に努めた。 ・図書標準達成率に向け図書整備を継続しており、児童生徒の図書貸出率も増加した。 ・経済的な保護者支援制度について、全家庭へ広く情報提供し、制度の周知を促進し、学校教育を受けられる一助となった。 											
【実績と成果】				<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>%</td> <td>76</td> <td>81</td> <td>86</td> <td>95</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	%	76	81	86	95	
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)											
%	76	81	86	95											
就学援助受給者数				378	410										
【課題と今後の方向性】				<p>【学識経験者の意見】</p> <p>学習指導員等の町独自の職員が配置され、児童生徒の個に応じた指導ができ、学習意欲の向上を図ることは大変重要であり継続されることを望む。</p> <p>子どもの貧困問題が社会問題になる等、就学援助は重要になっていることから、適切な支援に今後とも取り組んでいく必要がある。</p>											

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価	No.															
1 未来を拓く学びの力	III 質の高い教育体制の確立	3 地域に開かれた特色ある学校づくり	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「彩の国教育の日・教育週間」の取組を推進し、学校の教育活動を保護者、地域に公開する。 ・学校の教育活動充実のために「学校評議員制度」を活用する。 ・「学校応援団」の組織化に取り組み、地域と家庭との連携による特色ある学校づくりを推進する。 	<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校での「彩の国教育の日・教育週間」の実施。 ・全校での「学校評議員制度」の開催。(年3回) ・学校応援団の組織化。(常時登録者660人 これ以外に行事ごとに応援いただく方も多数いた) 	A															
<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「彩の国教育の日・教育週間」における学校公開及び埼玉県教育委員会ホームページでの公開内容等についての情報提供などの実施。 ・全校での「学校評議員制度」の導入。 ・全校での「学校応援団」の活動の実施。 			<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「彩の国教育の日・教育週間」の取組では、多くの保護者、地域の方々が来校し、各学校の教育活動を公開することができた。また、その内容も各校で工夫が見られ保護者とともに学ぶ機会ともなった。 ・学校評議員制度では、学校の教育活動について、保護者や地域の方からの意見や評価を取り入れ、学校運営の改善に生かされた。 ・学校応援団では、常時登録者数は減少したが、行事ごとに応援をいただける方が多数あり、学校における学習活動、安全確保、環境整備など、ボランティアとして保護者や地域の方々の参加を積極的に進め、学校・家庭・地域が一体となった子どもの育成を推進した。 	<p>【学識経験者の意見】</p> <p>学校応援団や学校評議員が組織され、多くの保護者や地域住民が学校を訪問する機会が増えたが、学校応援団の活動がさらに広まり、教育活動が充実したものになっていくことを期待する。</p> <p>開かれた学校であることが、教員の負担を減らすことにつながり、学校の活性化や学力向上に結びつくことを期待する。</p>	13															
<p>【実績と成果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人</td> <td>512</td> <td>672</td> <td>660</td> <td>650</td> </tr> <tr> <td>回</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>			単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	人	512	672	660	650	回	24	24	24	32	<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団員への研修の機会を確保する。 ・保護者、地域の方々はもとより、専門的な知見がある方からの学校教育活動への評価の機会を設定する。(学校評議員制度) 		
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																
人	512	672	660	650																
回	24	24	24	32																

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価		No.									
				評価	値										
1 未来を拓く学びの力	IV 安心・安全な教育環境の整備	1 学校施設・設備の整備充実	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成19年に策定した「三芳町公立学校施設耐震化計画」に基づき、学校施設の耐震化を推進するとともに、非構造部材の耐震化に取り組み。 (仮称)「公立学校大規模改修計画」を策定し、学校施設・設備の長寿命化を図るとともに、施設の改修に伴い、バリアフリー化に取り組み。 学校施設の室温上昇や省エネルギー対策について、既存変電設備の容量、空調設備、初期費用、維持費用など早急な調査業務の実施と改善方法の検討を図り、教育環境の改善に取り組み。 	A	<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校空調設備設置工事、上富小学校消防設備改修工事、竹間沢小学校給食用ダムウェーター改修工事、小中学校遊具施設改修工事、藤久保小学校放送設備改修工事、中学校給食用ダムウェーター改修工事(東中、藤中)、三芳東中学校3階衛生設備改修工事、小学校空調設備設置工事設計業務、小中学校各種修繕の実施。 	14									
			<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> (平成24年度) <ul style="list-style-type: none"> 唐沢小学校屋内運動場耐震補強工事、三芳中学校校舎耐震補強工事、三芳東中学校バリアフリー改修工事、三芳小学校普通教室棟外壁改修工事、小・中学校エアコン設置基礎調査業務委託の実施。 (平成25年度) <ul style="list-style-type: none"> 竹間沢小学校屋内運動場(渡り廊下含)耐震補強工事、上富小学校校舎・屋内運動場耐震補強工事、藤久保小学校2号館1階床改修工事、三芳小学校・上富小学校・唐沢小学校放送設備改修工事、中学校空調設備工事設計業務委託の実施。 	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校施設の耐震化については、「三芳町公立学校施設耐震化計画」に基づき、計画的な耐震補強工事を実施した結果、平成25年度の耐震補強工事の完了により、目標値の100%を達成したことから、着実に成果があったといえる。 学校施設・設備については、長寿命化を図るための大規模改修計画は策定していないが、老朽化が著しい部分から優先的に改修工事、修繕工事を行い、学校施設の適切な維持管理に努めた。 エアコン設置については、中学校の設置工事が完了した。平成27年度に小学校に設置工事を実施し、より望ましい学習環境の確保に向けて事業を進めている。 給食用の食器の変更に伴い、ダムウェーターの改修が小学校1基、中学校2基にとどまり、残りの改修を27年度に実施する。 											
<p>【実績と成果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>%</td> <td>86.7</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>				単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	%	86.7	100	100	100		
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)											
%	86.7	100	100	100											
<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校施設の耐震化については、平成25年度に耐震補強工事を完了したことにより、目標値の100%を達成した。今後は、新耐震基準により建設された施設について、非構造部材の耐震化を実施する。 学校施設・設備については、長寿命化を図るための大規模改修計画を策定して、計画的な大規模改修を行う。 教育環境充実のためのエアコン設置については、平成26年度に中学校の設置工事が完了し、平成27年度に小学校の設置工事を実施する。 ダムウェーターの改修については、平成26年度に改修できなかつた小学校4基分を平成27年度に実施する。 															
<p>【学識経験者の意見】</p> <p>耐震工事が完了したことは、児童生徒の安全面からも大変望ましいことである。今後も震災はじめ大規模な天災発生の可能性については予断を許されない状況であり、学校施設は地域住民の避難場所でもあることから、確実な維持・改修計画を継続して検討されたい。</p>															

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	No.																
1 未来を拓く学びの力	IV 安心・安全な教育環境の整備	2 子どもたちの安心・安全の確保	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命を尊重し、自ら安全な生活を営むとともに、他の人々の安全にも配慮し行動できる資質や能力を育てる。 ・各小中学校の防災計画を見直し、様々な自然災害や火災などの場面に応じて、避難経路や家庭への連絡体制、通学路の安全確認などの緊急時の対応マニュアルの見直しを行い、危機管理体制の整備・充実を図る。 ・家庭、地域社会、関係機関等との連携を図った安全教育の充実と安全管理の徹底を推進する。 	15																
<p>【評価】</p> <p>【平成26年度の取組み実績】</p> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールガードリーダー、保護者、地域による児童生徒の見守り活動の実施。 ・防災マニュアルの整備充実と計画的な避難訓練の実施。 ・メール配信システムを活用した防犯、防災情報の提供。 ・通学路の安全点検の実施。 																				
<p>【評価の理由】</p> <p>担当課</p> <p>学校 教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校において指導計画に基づく実践に取り組んだ。小中学校における避難訓練、交通安全教室など適切に実施できたが、各中学校における引き渡し訓練の実施ができなかった。 ・スクールガードリーダー、保護者、地域と連携し、児童生徒の安全な登下校及び地域での防犯や交通事故防止に努めることができた。 																				
<p>【実績と成果】</p> <p>単位</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小:100 中:0</td> <td>小:100 中:0</td> <td>小:100 中:0</td> <td>小:100 中:100</td> </tr> </tbody> </table>				24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	100	100	100	100	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	小:100 中:0	小:100 中:0	小:100 中:0	小:100 中:100	
24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																	
100	100	100	100																	
24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																	
小:100 中:0	小:100 中:0	小:100 中:0	小:100 中:100																	
<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通じて継続的、組織的な安全教育が実施できるよう、児童生徒、家庭、地域の実態を的確に把握し、各教科等の関連を図った指導計画を作成できるようにする。 ・各中学校において、引き渡し訓練など、学校と家庭が連携した訓練を実施していく。 ・緊急メール配信システムの全家庭登録を推進する。 																				
<p>【学識経験者の意見】</p> <p>スクールガードリーダーを中心に、児童生徒の安全を見守る体制を整えることは、子どもの安全確保に大きな役割を果たしていることから、今後とも継続していく必要がある。</p> <p>また、各中学校における引き渡し訓練や地域で子どもを守るにほどうしたらいいかいかなど、連携を図った安全管理の徹底を望む。</p>																				

<p>基本方針</p>	<p>1 未来を拓く学びの力</p>	<p>基本目標</p> <p>IV 安心・安全な教育環境の整備</p>	<p>主要な施策</p> <p>3 学校給食の充実</p>	<p>事業内容等</p>	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全な学校給食の提供を図るため、調理場内の衛生管理の徹底に努めるとともに、美味しい給食を目指して地場産野菜を積極的に取り入れ、栄養バランスのとれた魅力ある献立の立案に努める。 ・児童生徒の健康管理や体力の向上を目指し使用食材の安全確保を図るとともに食育を積極的に進める。 ・経年劣化により老朽化が著しい学校給食センターの施設等の整備を図る。 	<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理場内の衛生管理については、「大量調理施設衛生管理マニュアル」「学校給食衛生管理基準」を基に毎日の点検を実施。 ・三芳町の産直グループと提携し、地場産野菜を使用。 ・使用食材の安全確保のため、放射性物質検査の実施。 ・食物アレルギーを有する児童生徒の保護者に対して、給食食材に含まれるアレルギー食品の一覧表を提供。 	<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学校給食センターの供用開始(27年4月)に伴い、より安心・安全な学校給食を提供するため、「学校給食衛生管理基準」等に基づき、引き続き衛生管理の徹底を図る。 ・栄養教諭による食育授業の内容について検討を加え、授業時間の増加を図り、食育の効果向上を目指す。 ・新学校給食センターの2階に設置された見学コースや体験学習コーナーを活用し、児童生徒に給食についての理解、また、PTAの施設見学を積極的に受け入れ、学校給食についての理解を深める。 ・食物アレルギーを有する児童生徒に、アレルギー対応食の提供に取り組む。 	<p>【学識経験者の意見】</p> <p>旬の地場産野菜を使用し、児童生徒に食の関心を深める取り組みは効果的であり、また、調理場内を衛生的で安全に保つよう、今後とも継続していく必要がある。</p> <p>栄養教諭による児童生徒の健康管理や体力向上のための食育教育の充実、時間数の確保を望む。</p>															
<p>【評価】</p> <p>B</p>					<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育の観点から食器をアルマイト製食器から強化磁器製の食器に更新。 ・児童生徒が地場産野菜に関心を深めてもらうため、食器にみよし野菜のロゴやみよし野菜のイラストを掲載。 ・栄養教諭による児童生徒・保護者等を対象にした食育授業の実施。 ・新学校給食センターの開設に向け、調理業務等委託業者をプロポーザル方式により選定。 	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理場内の衛生管理については、文部科学省の定める「学校給食衛生管理基準」等に基づき点検を実施するとともに記録についても確実に実施した。 ・食育の観点から永年の懸案事項であった、給食用食器(アルマイト製→強化磁器製)の更新を行った。 ・食器に「みよし野菜」のロゴやイラストをプリントすることにより、地場産野菜について理解を深めた。 ・児童・生徒の健康管理や体力向上を目指し魅力ある献立の立案に努めるとともに、旬の食材や地場産野菜を取り入れ三芳町を意欲した給食の提供を行った。 ・栄養教諭による食育授業については、目標時間数は達成できなかったが、教育委員会各小中学校との内容について検討、協議を重ね学校給食の果たす役割の大切さを指導した。 	<p>【実績と成果】</p> <table border="1"> <tr> <td>単位</td> <td>24年度</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度(目標値)</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>21.8</td> <td>20.0</td> <td>24.0</td> <td>25.0</td> </tr> <tr> <td>時間</td> <td>48</td> <td>40</td> <td>39</td> <td>60</td> </tr> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	%	21.8	20.0	24.0	25.0	時間	48	40	39	60	<p>No.</p> <p>16</p>
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																			
%	21.8	20.0	24.0	25.0																			
時間	48	40	39	60																			

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価	No.															
1 未来を拓く学びの力	IV 安心・安全な教育環境の整備	4 地域ぐるみで学校を支援する体制の整備	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校応援団」を充実させる。 ・PTA活動等との連携や地域行事等への積極的に参加する。 	<p>評価</p> <p>【平成26年度の取り組み実績】</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団の取組として、下校時の見守り活動、読み聞かせ活動、学校ファームでの指導、書写(書き初め)、家庭科(ミシン指導)、生徒と協働して花植え活動等を実施。 ・地域の資源の活用や保存会の方々の招聘し、三芳の伝統・文化を体験し理解を深める学習を総合的な学習の時間等を活用して実施。 	17															
【これまでの取組状況】			<ul style="list-style-type: none"> ・すべての小中学校に「学校応援団」を組織。 ・コーディネーターの養成による学校応援団組織の定着化。 ・学校の各教育活動を支える学習活動、安全確保、環境整備などの活動。 	<p>担当課</p> <p>学校 教育課</p> <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団はすべての小中学校で設置され、登録者数は、年々増加し、平成26年度には、全体で650名を超えている。また、学習支援や緑化作業、児童生徒の登下校の見守り等について、学校と協力しながら行われており、学校の教育活動を支援し、子どもたちを保護者と地域の方々がともに育てる体制が整備されている。 																
【実績と成果】				<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>%</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>512</td> <td>672</td> <td>660</td> <td>650</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	%	100	100	100	100	人	512	672	660	650	
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																
%	100	100	100	100																
人	512	672	660	650																
【課題と今後の方向性】				<p>【学識経験者の意見】</p> <p>学校応援団が充実し、地域の教育力が活用され、教育活動を進めていることは望ましいことから、今後も継続するよう、また、協力者も充実感がもてるような連携を考えていく必要がある。学校応援団の存続には、より多くの保護者や地域の方々を知ってもらい、学校応援団の登録者になるための仕組みが必要である。</p>																

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価	No.																				
2 生き生きと輝く学びの場	I 家庭・地域の教育力の向上	1 家庭教育・子育て支援	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核家族化の進展や地域の人間関係の希薄化が進む中で、子育て家庭は、孤立化する傾向にあるため、専門職(社会教育主事・社会教育指導員)を配置し、家庭教育学級の開設や学級運営の指導助言を通して家庭の教育力の向上やふれあいの場の提供を支援する。 	<p>【平成26年度の取り組み実績】</p> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、対象者が変わるため、基本的な家庭教育学級を開設するための支援等を行った。 	18																				
			<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校PTAを対象として、家庭教育学級を行うにあたり、準備講座を開設し、運営における運営支援をはじめ、社会教育に関する相談・助言・指導を行う。 	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級を行うことにより、普段では触れ合う機会が少ない保護者同士の交流や子どもたちとの触れ合いが盛んになるなど、子育て家庭の孤立化の防止や相互学習の向上につながっているが、さらに多くの方が事業に参加するようない取り組みを工夫する必要がある。 																					
			<p>【実績と成果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>36</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> <p>【実施講座数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>人</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,200</td> <td>1,006</td> <td>872</td> <td>878</td> <td>1,200</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	件	41	41	36	40	人	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	1,200	1,006	872	878	1,200	<p>【学識経験者の意見】</p> <p>地域の人間関係の希薄化が進む中、子育て家庭を支援する活動は、今後ますます重要になる。今後は地域でも子育て支援や子育て家庭の孤立化を防止するための家庭教育学級の開設を検討されたい。</p>	
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																					
件	41	41	36	40																					
人	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																					
1,200	1,006	872	878	1,200																					

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価		No.																				
				評価	【平成26年度の取組み実績】																					
2 生き生きと輝く学びの場	I 家庭・地域の教育力の向上	3 青少年教育と健全育成の推進	<p>【施策の内容】</p> <p>・青少年の健全育成は、行政だけでなく様々な機会、立場において取り組むことが必要であるとともに、地域社会の人と人との触れ合いの中で取り組むことが大切である。このような地域での取り組みや住民の活動に対し、支援することにより、時代を担う子ども達の育成環境の整備を図ることを目的とする。</p>	B	<p>・青少年育成町民大会、子どもフェスティバル、ドッジボール大会、チャレンジアドベンチャーキャンプ、夏休み映画会、青少年非行防止パトロールの実施。</p>	19																				
			<p>【これまでの取組状況】</p> <p>・町内の青少年育成団体(青少年育成三芳町民会議・子ども育成委員会・青少年相談員・青少年育成推進員)が実施する青少年育成町民大会(青少年の主張)をはじめ、子どもフェスティバル、ドッジボール大会、キャンプの事業に対し、人的・財政的支援を行った。</p>	<p>【評価の理由】</p> <p>・青少年の健全育成のために、各種団体の協力を得ながら、様々な事業に取り組んでいるところではあるが、地域全体で青少年を守り育てる効果が十分に上がっているとは言えない。</p>																						
<p>【実績と成果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各地区子ども会育成会加入率</td> <td>81</td> <td>82</td> <td>82</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>事業の回数</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>事業の参加者数</td> <td>8,712</td> <td>8,990</td> <td>9,398</td> <td>8,800</td> </tr> </tbody> </table>				単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	各地区子ども会育成会加入率	81	82	82	90	事業の回数	6	6	6	6	事業の参加者数	8,712	8,990	9,398	8,800	<p>【学識経験者の意見】</p> <p>子どもたちの健全育成のために、地域と行政が連携して取り組む必要性は高まっており、事業への参加者が年々増加していることから、今後一層子どもをひきつける事業を工夫し継続的に子どもの健全育成を行っていく必要がある。また、青少年育成関係団体の組織の在り方や事業の見直しについても検討されたい。</p>		
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																						
各地区子ども会育成会加入率	81	82	82	90																						
事業の回数	6	6	6	6																						
事業の参加者数	8,712	8,990	9,398	8,800																						
<p>【課題と今後の方向性】</p> <p>・青少年の健全育成に対し、行政と住民とのかかわり方に変化が見られる。これまで行政区を中心とした組織単位で各事業を推進してきたが、子ども会育成会に所属しない子どもたちも増加の傾向が見られる。今後、開催する事業内容も含めて、地域で青少年を守り育てる体制を維持するよう支援を続ける必要がある。また、全体的な事業の見直しも含め検討することも重要と考えられる。</p>																										

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価	No.														
2	生き生きと輝く学びの場	I 生涯学習・社会教育の充実	<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進のための条件整備として、青少年・障がい者・高齢者等、学習機会の少ない方への学習環境の整備を継続的に実施。 ①生涯学習活動促進事業として、社会教育委員の活動・コミュニティカレッジの展開、②家庭教育・子育て支援事業として、親の学習講座の実施、③週末活動等推進事業として、ジュニアボランティアの育成、④青少年健全育成事業として、子ども育成会や青少年相談員の活動の振興、⑤文化振興事業(竹間沢車人形公演・文化協会等)、⑥学校体育施設開放事業等の推進。 	<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新中央公民館の建設に着手。 ・事業としては、継続的に実施している事業の他に、子どもフェスティバル、子どもドッジボール大会、夏休み探検隊、ジュニアリーダー宿泊研修キャンプなど運営協力と事業参加を行った。(成果実績にはキャンプと夏休み探検隊の実績を記入) 	20														
<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども大学みよし」は2年目ということもあり、事業運営は順調に進んだが、地域との更なる連携の構築等将来を見越した運営ヘシフトしていくための対策を講じる必要がある。 ・新中央公民館建設に伴い、上富・北永井の人口の少ない地域で、利用者の拡大を目指すために、音楽スタジオやキッズスタジオなどの特色ある施設を提供する。 			<p>【学識経験者の意見】</p> <p>町の生涯学習は、公民館に登録するサークルや団体が中心で活発に活動しているが、公民館活動を通して身に付けた成果を社会に還元し、その結果が社会から評価される仕組みが必要であり、学校・家庭・地域のさらなる連携を望む。また、新中央公民館の開設により地域に定着した社会教育活動が充実し、拡大していくことを期待する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>123</td> <td>139</td> <td>150</td> <td>145</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	件	2	1	2	2	人	123	139	150	145
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)															
件	2	1	2	2															
人	123	139	150	145															

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	No.															
2 生き生きと輝く学びの場	II 生涯学習と振興と社会教育の充実	2 人権教育の推進	<p>【施策の内容】</p> <p>・なお、様々な人権問題が存在し、十分に人権が尊重されている社会とは言えないことから、人権問題の解決や差別の解消に向けて、社会を構成する人々が、お互いに個人として尊重し合う社会を実現することを目的とし、啓発活動に取り組んでいく。</p>	<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <p>B</p> <p>・人権問題講演会、人権教育実践交流会、人権啓発ポスター・人権標語・人権作文の募集。</p>															
			<p>【これまでの取組状況】</p> <p>・人権教育の推進を基本理念に、人権問題講演会、人権教育実践交流会を実施するとともに町内小中学校、児童生徒から人権啓発ポスター・人権標語・人権作文を募集し、「ごろの詩」として作品集を刊行。</p>	<p>【評価の理由】</p> <p>・人権教育・啓発事業については、継続的に行うことが大事であり、今後事業参加者のさらなる増加を目指し、内容等を工夫・改善していく必要がある。</p>															
			<p>【実績と成果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>583</td> <td>621</td> <td>601</td> <td>750</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	件	3	3	3	3	人	583	621	601	750	21
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)															
件	3	3	3	3															
人	583	621	601	750															
			<p>【課題と今後の方向性】</p> <p>・新たなインターネットによる人権侵害等にも、継続して取り組むことが必要なため、今後も継続的に行っていく。</p>	<p>【学識経験者の意見】</p> <p>人権問題や差別の解消に、講演会、研究会、交流会、文集の発行など、あらゆる機会を活用して、人権感覚を養うための取り組みを継続していく必要がある。</p> <p>より、多くの児童生徒の参加、地域保護者の参加を得る活動へと、実践方法を工夫する必要がある。</p>															

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価	No.															
2	生き生きと輝く学びの場	3 公民館活動の充実	<p>【実施の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館を安心・安全で快適な状態で使用していくため、施設や設備の日常的なメンテナンスを行うとともに、中長期大規模改修を計画的に進める。また、火災や地震などの災害に対応し、避難訓練の実施や対応マニュアルの整備をする。 ・多様化する住民の活動から発する課題を捉え、住民の「学びたい」「知りたい」という願いに応える、充実した公民館事業を提供する。 ・高齢者の社会参加や学習機会を充実するため、高齢大学を開講すると共に、興味関心の多様化に応える新たな教室の開設等に取り組む。 	<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館の設置及び管理に関する条例で施設使用料及び施行規則で備品使用料の一部改正をした。 ・新中央公民館の開館に備え備品等を整備。 ・マンズリー・スクエア、町民文化祭、歴史講座、日本語教室、パソコンなんでも相談室、体験事業子ども体験事業、その他、各種事業に取り組んだ。 ・高齢大学(藤久保・中央・竹間沢教室)を開講し高齢者計215名の学習と交流の場所づくりに取り組んだ。 	A	22														
<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内2か所の公民館施設や設備について日常的な点検やメンテナンスを行い、利用者が安心・安全で快適な状態で使用できるよう取り組んできた。 ・住民の「学びたい」「知りたい」という願いに応えるため、町民文化祭、コンサート・イベント、各種教養講座、各種支援事業などに取り組んできた。 ・高齢大学を開講し、公民館別に教室を設置して、高齢者の学習機会の充実に取り組んできた。 			<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物、設備については、定期点検や必要に応じた修繕等を行っており、安心・安全で快適な状態で利用者に提供した。 ・竹間沢公民館のマンズリー・スクエアにおいては、企画から運営までボランティアとの協働で実施し、さらに入場者アンケートにより新たな協力者の参加を働きかけ、ボランティアの輪の広がりを図った。 ・高齢大学については、中央・藤久保・竹間沢の3教室を開講し、全地域の高齢住民に対して、引き続き自主的な学習機会と交流場所の提供を行った。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人</td> <td>99,764</td> <td>98,377</td> <td>105,192</td> <td>120,000</td> </tr> <tr> <td>回</td> <td>204</td> <td>205</td> <td>280</td> <td>240</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	人	99,764	98,377	105,192	120,000	回	204	205	280	240	22
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																
人	99,764	98,377	105,192	120,000																
回	204	205	280	240																
<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物や設備の経年劣化に対応するために修繕計画を立て、取り組んでいく必要がある。 ・地域情勢の変化や住民の高齢化により、ニーズも変化している。時代に即した課題を捉え、柔軟な姿勢で対応していく必要がある。 ・高齢者人口の増加に加え、志向の多様化に対応した学習内容や学習システムを構築する必要がある。 ・「公民館運営基本方針」を礎に、今後豊かな地域づくりをめざし公民館事業を展開していく。・公民館運営審議会より答申がでている使用料の減免規定について検討していく。 			<p>【学識経験者の意見】</p> <p>公民館は、地域住民の主体的な活動を育成し支援していくことが求められていることから、積極的に住民参加の活動を推進していくことが大切である。また、「公民館運営基本方針」が作成され、新中央公民館とともに、今後の地域に根ざした公民館運営が展開されていくことを期待する。</p>																	

No.	総合評価		事業内容等	主要な施策
2	A	【平成26年度の取組み実績】 ・平成24、25年度事業をすべて継続実施。 ・基本図書計画的買い換えで資料の充実を図った。 ・図書館主催ボランティア講座、men's読み聞かせ講座の実施。 ・講師派遣サービス(学校、地域ボランティア団体等)の周知。 ・子ども動機付け事業(お話し会、ブックトーク、ブックスタート、ブックスタートプラス)の担当職員・ボランティアの内部研修を強化し質の向上を図った。 ・絵本作家講演会の実施。 ・大人のための図書館講座等、一般対象事業を充実させた。 ・3歳以上向けぐりぐりタイムの開催を平日から日曜日に変えたことで子ども連れ父親の参加が増えた。	【施策の内容】 ・町民の豊かな読書生活を保障し、地域の情報拠点としてよく利用される図書館を目指し、新鮮で魅力ある蔵書をバランス良く整備する。 ・平成23年策定の「三芳町子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちに読書の喜びを伝える動機付け事業を積極的に実施する。 ・子ども読書を推進するための読書ボランティアを学校や町全域に養成し、その活動を支援し連携の体制づくりを図る。	4 図書館サービスの充実
23	図書館	【評価の理由】 ・本が苦手で図書館に米ない子どもへの働きかけとして、1字校ブックトーク訪問」や他機関と連携した動機づけ事業を積極的に、継続的に展開させた成果を上げている。 ・学校やボランティア主催研修会に職員を講師派遣。専門司書による講習会を無料開催できる環境を作り、読書ボランティア育成、子育て支援に貢献している。 ・常に事業実施状況を精査し、内容改善を図っている。 ・住民のニーズをとらえて新規事業を開発し成果を上げている(大人のための図書館講座等)。 ・児童対象事業は大人(子育て世代)の図書館利用促進に役立っている。 ・ブックスタート、ブックスタートプラスは、子育て支援にも貢献している。	【これまでの取組状況】 ＜平成24年、25年度＞ ・的確な資料収集と不要図書廃棄で魅力のある蔵書を構築。 ・館内の子どもの読書動機付け事業(0歳親子から小学6年生への読み聞かせ、語り、推薦図書紹介等)。 ・子ども読書ネットワーク事業(学校ブックトーク訪問、保管所お話し会、子育て支援センター絵本講座等)。 ・子ども読書ボランティア養成事業(主催講演会やボランティア研修会、学校やボランティア団体等へ講師派遣)。 ・ブックスタート(4か月児)、ブックスタートプラス(2歳6か月児)。 ・一般読書動機付け事業(大人のための図書館講座)。 ・一般ネットワーク事業(民家で夜語り、太陽の家お話し訪問)。 ・インターネット予約サービスを町在住・在勤利用者対象に開始した。	II 生涯学習の振興と社会教育の充実
	単位	24年度 13.27 25年度 12.66 26年度 12.33 27年度(目標値) 15.50	・実績と成果 人口1人あたりの貸し出し冊数 予約件数 子ども1人あたりの貸出冊数 ボランティアの登録人数 読書活動推進事業開催回数	
	冊	29,161	指標を数値化することが困難な事業の客観的効果や目標	
	冊	18,81		
	人	36		
	冊	30,942		
	冊	18,87		
	回	35		
	回	278		
	回	282		
	回	34		
	回	45		
	回	301		
			町民によく利用される施設にする。(貸出冊数に反映しない館内閲覧のみ利用者も多い。)	
			利用される図書の高品質を図る。(重厚な図書を読み終えるには時間がかかり、貸出冊数は減る。)	
			事業の質を高め実施効果を上げる。(少人数制事業にすると満足度は上がるが、参加者数は減る。)	
			【学識経験者の意見】 町民の豊かな読書活動を支えるため、多様なニーズに応えながら、創意工夫のある図書館活動を展開していることから、今後、図書館職員の質の向上と専門職員を育成し、より一層的確な選書とレファレンスサービスの向上を期待する。	
			【課題と今後の方向性】 ・町内読書ボランティアの養成ができる職員(司書)の育成を継続的に行う。 ・図書館で町内読書ボランティアの活動を把握・支援し、町全域での活用を促進させる。 ・大人のための図書館講座は、一般サービスを担う専門職員との育成を図りながら今後は、更なる利用増加が見込まれる高齢者にも魅力のある内容としていく。 ・図書館から離れている上富地区、北永井地区の町民の声を受け、配本所サービスの充実を目標として検討する。 ・人々の読書離れの傾向は顕著であり、全国統計結果からも貸出冊数増加には限界を感じる。 ・町民に頼まれる図書館として、目標に、「利用者数(貸出者+講座参加者+閲覧者)増加」を加えることを検討している。	

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	主要な施策	事業内容等	総合評価	No.																				
2 生き生きと輝く学びの場	III 生涯スポーツの推進	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近でスポーツ活動ができるように、各種スポーツ教室やイベントの開催など、スポーツ・レクリエーション活動の普及と促進事業を展開する。 	<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みよしのスポーツ施設・スポーツ行事予定表の作成配布。 ・みよしジュニアハンドボールチーム結成及びジュニアハンドボール教室の実施。 ・健康・体力測定会の開催。 <p>評価</p> <p style="text-align: center;">A</p>	24																				
	1 スポーツ推進と健康増進	<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の実施。 ・ニュースポーツ大会の実施。 ・各種スポーツ教室の実施。 ・健康・体力測定会の継続的な実施。 	<p>担当課</p> <p>生涯学習課</p> <p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度より体育施設の指定管理者制度に移行し、平成26年度は指定管理期間5年の最終年度となる。指定管理者の各種自主事業が実施されており、それらの充実が図られている。 ・平成24年度より教育委員会、指定管理者、地元企業3者の協働により、ジュニアハンドボール教室を開催するとともに、みよしジュニアハンドボールチームを結成し、更なるレベルアップを目指している。 ・健康・体力測定会を実施、毎年継続しての開催で196人の参加者があった。 																					
		<p>【実績と成果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スポーツ・レクリエーション大会等の参加率</td> <td>0.7</td> <td>0.9</td> <td>0.8</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>大会・教室開催件数</td> <td>18</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>大会・教室参加人数</td> <td>57,817</td> <td>63,819</td> <td>74,005</td> <td>60,000</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	スポーツ・レクリエーション大会等の参加率	0.7	0.9	0.8	3.0	大会・教室開催件数	18	14	14	20	大会・教室参加人数	57,817	63,819	74,005	60,000		
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																				
スポーツ・レクリエーション大会等の参加率	0.7	0.9	0.8	3.0																				
大会・教室開催件数	18	14	14	20																				
大会・教室参加人数	57,817	63,819	74,005	60,000																				
		<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツ大会の参加者が減少傾向にあるため、広報活動等の見直しを含め、新たな種目等の企画を検討する必要がある。 ・住民ニーズにあった魅力あるプログラム等の検討が必要がある。 ・最終年度を迎える指定管理者に対するモニタリング及び事業評価等の総括。 ・来年度はジュニアハンドボール教室の継続とみよしジュニアハンドボールチームを結成し、更なるレベルアップ、女子チームの結成及び対外試合の勝利を目指す。 	<p>【学識経験者の意見】</p> <p>高齢化が進む住民の健康増進は、地域と連携して身近でできるスポーツ教室やレクリエーション活動を実施し、健康づくりにつながる事業を展開していくことを望む。</p> <p>ジュニアハンドボール教室、健康・体力測定会等に多くの町民が参加できていることから、今後も町民が参加したくなる事業に取り組んでいただきたい。</p>																					

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

(※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価		No.																				
				評価	実績																					
2 生き生きと輝く学びの場	Ⅲ 生涯スポーツの推進	2 スポーツ施設の整備充実	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設を最適な状態に保つことにより、安全で良好な利用に供する。 小中学校の体育施設(校庭・体育館・柔剣道場)を開放することにより、身近なスポーツ・レクリエーション活動の場として、生涯スポーツの推進に寄与する。 	A	<p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合体育館アリーナ床修繕工事。 総合体育館武道場床修繕工事。 運動公園グラウンドピッチャープレート取替工事。 運動公園グラウンドサッカーゴール修繕。 学校開放日程調整等業務委託。(年間調整及び月次調整会) 	25																				
				<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成22年度から体育施設の指定管理者制度の実施。 指定管理者との協議による施設修繕等の調整及び利用者ニーズによる施設の整備他。 学校開放運営委員会の開催。 学校開放利用団体登録及び利用調整会の開催。 学校開放管理用品の調査、整備。 	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者による一定水準の管理運営で、施設の高い利用率を維持している。 学校開放は利用者が多く、住民の身近なスポーツ・レクリエーション活動の場として、十分役立っている。 体育施設指定管理者との学校開放日程調整等業務委託により、利用者の利便性の向上と行政のスリム化が図られている。 																					
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>% (屋内)</td> <td>68.33</td> <td>67.25</td> <td>71.62</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>% (屋外)</td> <td>58.59</td> <td>58.25</td> <td>59.25</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>時間</td> <td>9,684</td> <td>8,870</td> <td>7,923</td> <td>12,000</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	% (屋内)	68.33	67.25	71.62	65	% (屋外)	58.59	58.25	59.25	45	時間	9,684	8,870	7,923	12,000		
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																						
% (屋内)	68.33	67.25	71.62	65																						
% (屋外)	58.59	58.25	59.25	45																						
時間	9,684	8,870	7,923	12,000																						
<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者に対するモニタリング及び事業評価等が課題である。 学校行事等により調整が難しい場合があるため、学校単位による開放事業実施の検討が必要である。 全校で実施され、日常的な利用がされている。今後は、地域に開かれた学校運営を踏まえ、各学校管理下による開放事業の検討が必要である。 				<p>【学識経験者の意見】</p> <p>町内には多様なスポーツ施設があり、そこで様々なスポーツ事業が展開され、施設の高い利用率が維持されていることは望ましい。</p> <p>スポーツ施設が最適な状態に保たれ、高い利用率を維持していることは、地域住民がスポーツに親しむために大切であり、継続することが必要である。</p>																						

【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 (※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価		No.		
				評価	【平成26年度の取組み実績】			
2 生き生きと輝く学びの場	Ⅲ 生涯スポーツの推進	3 スポーツ指導者の養成と団体支援	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに対する正しい理解と普及啓発をすることにより、スポーツ事故の防止と多くの町民にスポーツの普及を促進し、生涯スポーツの振興を図る。 ・スポーツ推進委員及び各種スポーツ指導者の資質の向上を図る。 ・体育協会及び体育協会に加盟する各種競技団体、地域クラブを育成・支援し団体相互の交流を促す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全国・関東・埼玉県・入間地区スポーツ推進委員研究大会等への参加。 ・埼玉県スポーツリーダー研修会等への参加。 ・スポーツ少年団認定員養成講習会等への参加。 	26		
				<p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員及びスポーツ指導者の各種研修会等への参加。 ・スポーツ推進委員連絡協議会への団体補助金の交付。 ・各種スポーツ指導者による初心者育成など各種教室の実施。 ・体育協会への補助金の交付。 	<p>【評価の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員に対する研修会など、指導者養成が行われているが、委員の出席率の向上をばはかる必要がある。 ・スポーツ推進委員の関わる教室・大会については、ニュースポーツの普及発展、定着に成果があがっている。 ・各種スポーツ指導者による教室等の実施により競技者の育成及び競技人口の拡大が図られている。 			
				単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)
				各種研修会等の件数	6	7	9	6
				各種研修会等参加者数	28	40	69	30
				【課題と今後の方向性】				
				<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な指導者養成に向けた事業展開を協議・検討している。 ・独自の指導者養成研修等の実施・推進により、積極的に新たな指導者の発掘が求められる。 ・体育協会の目立に向けた財政基盤の確立及び補助金の見直し、事業委託への検討が必要である。 				
				【学識経験者の意見】				
				<p>スポーツ指導者養成は、指導者養成講座や研修会に積極的に参加させたり開催して、研修終了者を指導者として認知するシステムを確立する必要がある。</p> <p>また、町内のスポーツ指導者の登録と活用についても検討されたい。</p>				

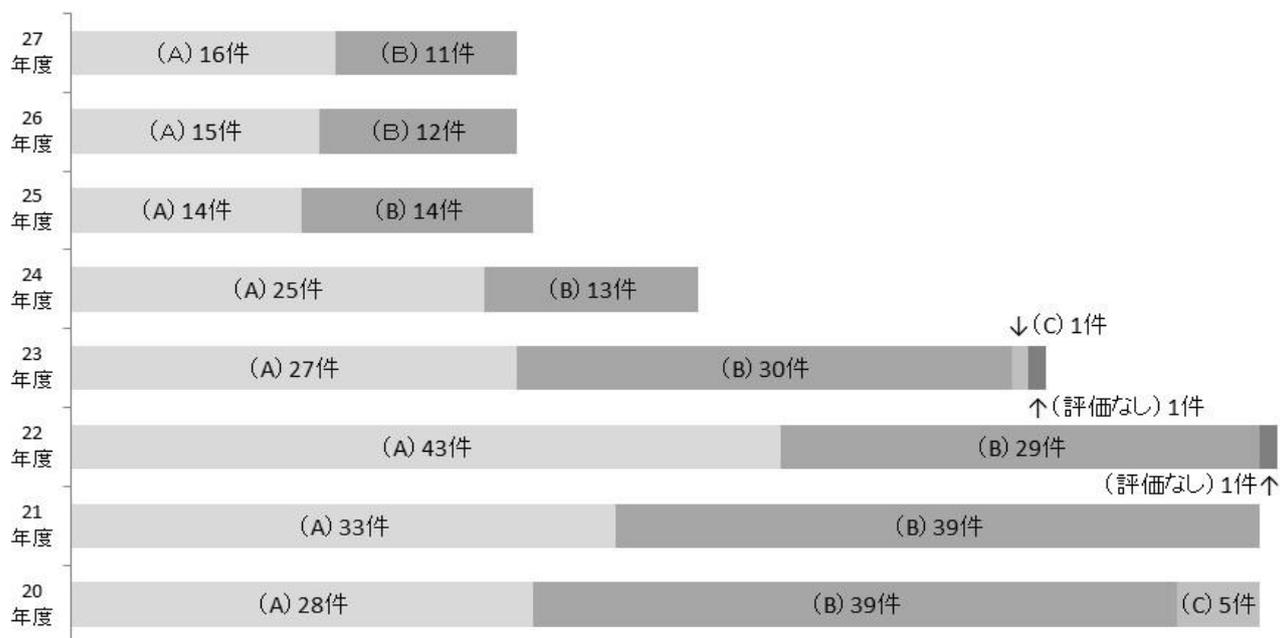
【評価基準】A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

(※『教育振興基本計画』掲載の指標値は斜体)

基本方針	基本目標	主要な施策	事業内容等	総合評価	No.															
2 生き生きと輝く学びの場	IV 文化財の保護と郷土学習の推進	1 文化財保護の推進 2 遺跡の保護と調査研究の推進 3 文化財の活用と郷土学習の推進 4 資料館活動の充実	<p>【施策の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定文化財の保護・拡充。 三富関連事業の推進。 遺跡の保護と調査研究の推進。 文化財の活用と郷土学習の推進。 資料館活動の充実。 <p>【これまでの取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三芳町の貴重な文化財の価値を明らかにし、三芳町の歴史や文化を正しく理解するために、特に重要なものを指定し、保護措置を講じてきた。 旧島田家住宅や資料館では、文化財を活用した体験学習(ジュニア三富塾・土曜体験)などを行うとともに、町内に限らず小中学校と連携し、社会科学見学の受け入れを行った。 遺跡の保護については、開発に際しての事前協議や問い合わせへの対応を迅速に行い、遺跡の周知を図るとともに保護意識の向上に努めた。 	<p>【評価】</p> <p>A</p> <p>【平成26年度の取組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財試掘確認調査7カ所(11,693㎡)・発掘調査6カ所(5,000㎡) 落ち葉掃き、苗床づくり、さつまいもも大学の実施。 三富新田社会科学見学20校1,564名(旧島田家・屋上) 昔のくらし体験等社会科学見学9校651名(資料館) 郷土芸能保持団体への助言と支援。(体験教室の開催・発表会の実施) 	27															
<p>【課題と今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域文化の再認識や創造に寄与するため、地域の歴史や文化を様々な手法で発信するとともに、生涯学習や社会教育のニーズに応える学習資料を充実する。 文化財の保存や調査研究を充実させ、成果を活かした展示・事業を実施する。 発掘調査体制の整備、調査精度の向上、調査成果の還元等更なる充実に努める。 町民の地域アイデンティティの確立や、郷土に誇りを持ち町を大切にする人づくりや町のイメージアップにつながる資料館活動を充実させる。 				<p>【学識経験者の意見】</p> <p>地域の特色となる指定文化財や遺跡、歴史的資料の保全、保護意識を、町全体として高めるための取り組みを今後も継続していく事を期待する。</p> <p>また、小中学校との連携を図り、社会科学見学などを受け入れていくことも、町の文化を児童生徒に理解させる良い機会になっている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度(目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人</td> <td>5,551</td> <td>6,069</td> <td>6,518</td> <td>6,200</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>6,389</td> <td>5,699</td> <td>5,753</td> <td>6,000</td> </tr> </tbody> </table>	単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)	人	5,551	6,069	6,518	6,200	人	6,389	5,699	5,753	6,000
単位	24年度	25年度	26年度	27年度(目標値)																
人	5,551	6,069	6,518	6,200																
人	6,389	5,699	5,753	6,000																

Ⅲ 主要施策の点検・評価結果

1 総合評価結果の比較（平成20年度～平成27年度）



※「評価なし」について、平成22年度は「三芳町中学生海外派遣事業」（平成21年度は事業休止）、平成23年度は「（仮称）中央公民館等複合施設建設計画の推進事業」（建設部会において検討）。

2 学識経験者の意見（総括）

（1）評価の方法等について

- 総合評価結果の根拠が明確に反映されていないものがある。
- 目標達成した指標については、評価対象から除くか、または新たな目標の設定を検討されたい。
- 事業内容が重複している点があるので、内容を整理し根拠を明確に示す必要がある。
- 計画指標一覧に示されている指標の達成度について、検証していく必要がある。
- 引き続き、明確になった課題に取り組み、成果を出していけるよう期待する。

（2）教育内容・活動内容の充実について

- 児童生徒それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために、小学校では、特別活動・総合的な学習の時間等において、中学校では、職場体験を実施して成果をあげていることから、この取り組みを今後も継続していく事が重要である。

- 今後一層国際化が進むことが予想され、日本語が十分でない児童生徒の増加が考えられるが、このような児童生徒への教育環境の整備を充実させていくことが大切である。
- 豊かな心を育てるためには、読書活動の推進や道徳教育の効果的な指導など教職員の指導力を向上していく必要がある。
- 情報機器が急速に進歩する中、児童生徒のICT機器を活用できる力を付けることが教育に求められるため、今後とも効果的な研修を進め、教職員の情報機器活用能力の向上やICTを活用できる環境整備に一層努力していく必要がある。
- 今後も震災をはじめ大規模災害の可能性については予断を許されない状況だが、耐震補強工事が完了したことは児童・生徒・保護者・地域住民に安心感を与える。
- 子どもたちの安全確保のため、各小中学校の防災計画・緊急時の対応について見直し、現実にあった危機管理体制の整備・充実に積極的に取り組むことが大切である。

(3) 組織体制の充実について

- 今日、若い教職員が増加しているが、計画的な研修制度の活用や個別の研修課題に取り組み、教職員の資質向上を図ることは重要であり、教職員が取り組む必要感・充実感を持てる研修を今後も推進していくことが大切である。
- 質の高い教育を推進するためには、人的環境の整備・教材教具の整備が計画的に実施されていくことが重要である。
また、経済的な保護者支援制度については、今後も継続し、町単独の補助制度については財政状況を踏まえつつ改善していくことを望む。
- 地域に開かれた特色のある学校にするために、学校応援団や学校評議員制度を活用することによって、多くの保護者や地域住民が学校を訪問する機会が増えてきた。学校応援団の活動がさらに広まり、教育活動が充実したものになっていくことを期待する。
- 新中央公民館の開設により地域に定着した社会教育活動が充実し、今後一層拡大していくことを期待する。
- 社会教育及び社会体育分野の事業については、今後も利用者の声を生かしながら、地域の特色に合った多様な学習機会の提供に努めることが大切である。また、積極的に住民参加の活動を推進し、他の機関との連携を強化しながら、事業を通して地域で子どもを育てる取り組みを行っていくことが大切である。

三芳町教育委員会委員名簿

(平成27年12月現在)

委員長	松本長治
委員長職務代理者	松本薫
委員	長野真寿美
委員	池上善一
教育長たる委員	桑原孝昭